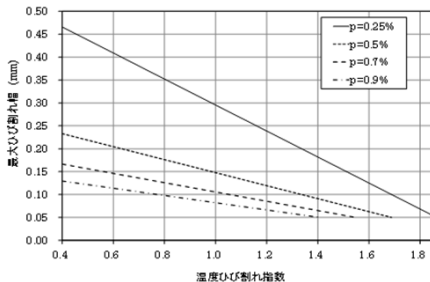


2017年制定 コンクリート標準示方書【設計編】

正 誤 表 (2017年版・第1刷対応)

2018. 6. 14

頁	行、図・表番号	誤	正								
本編	1 下から11～10行目	引張降伏強度の特性値が685N/mm ² を超える鉄筋を用いる場合には、別途、検討する必要がある。引張降伏強度の特性値が685N/mm ² を超える鉄筋を用いる場合には、別途、検討する必要がある。	引張降伏強度の特性値が685N/mm ² を超える鉄筋を用いる場合には、別途、検討する必要がある。 引張降伏強度の特性値が685N/mm²を超える鉄筋を用いる場合には、別途、検討する必要がある。								
標準	232 下から4～2行目	式(2.3.3)は、既往の研究成果を参考にして定めたものである。なお、径が異なる鉄筋を組み合わせて用いる場合、特性値が490N/mm ² 以上の高強度異形鉄筋を用いる場合には、別途の適切な方法によりひび割れ間隔を求めるのがよい。	式(2.3.3)は、既往の研究成果を参考にして定めたものである。なお、径が異なる鉄筋を組み合わせて用いる場合、 特性値が490N/mm²以上の高強度異形鉄筋を用いる 場合には、別途の適切な方法によりひび割れ間隔を求めるのがよい。								
標準	324 解説 図2.2.1										
標準	351 下から4行目	f_{bod} : コンクリートの設計付着強度で、 γ_c は1.3として[設計編：本編]式(解5.2.2)の f_{bok} より求めてよい。	f_{bod} : コンクリートの設計付着強度で、 γ_c は1.3として[設計編：本編]式(解5.3.2)の f_{bok} より求めてよい。								
標準	460 解説 図9.2.1 (図タイトル)	解説 図9.2.1 プレキャスト部材と現場打ちコンクリートの機械式継手の事例(断面図)	解説 図9.2.1 プレキャスト部材と プレ キャスト部材の機械式継手の事例(断面図)								
付属資料	598 表1	表1 下記項目の数値 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>構造物</th> <th>単位水量の上限値 (kg/m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケーソン基礎</td> <td>165</td> </tr> </tbody> </table>	構造物	単位水量の上限値 (kg/m ³)	ケーソン基礎	165	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>構造物</th> <th>単位水量の上限値 (kg/m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケーソン基礎</td> <td>175</td> </tr> </tbody> </table>	構造物	単位水量の上限値 (kg/m ³)	ケーソン基礎	175
構造物	単位水量の上限値 (kg/m ³)										
ケーソン基礎	165										
構造物	単位水量の上限値 (kg/m ³)										
ケーソン基礎	175										

2019. 3. 6

頁	行、図・表番号	誤	正
標準	333～334 解説 表5.1.1 解説 表5.1.2	次頁のとおり	次々頁のとおり

(誤)

解説 表 5.1.1 圧縮強度発現式の各定数

セメントの種類	基準材齢 i (日)	$a=\alpha_1+\beta_1(C/W)$		$b=\alpha_2+\beta_2(C/W)$		S_f
		α_1	β_1	α_2	β_2	
普通ポルトランド セメント	28	6.31	-1.36	0.771	0.0494	0.37
	56	6.94	-1.54	0.875	0.0278	
	91	7.37	-1.67	0.946	0.0138	
中庸熱ポルトランド セメント	28	15.8	-3.44	0.428	0.125	0.42
	56	20.2	-4.79	0.637	0.0862	
	91	24.3	-6.09	0.844	0.0399	
低熱ポルトランド セメント	28	21.9	-3.94	0.203	0.143	0.50
	56	32.8	-6.92	0.410	0.125	
	91	42.0	-9.72	0.612	0.086	
早強ポルトランド セメント	7	3.27	-0.816	0.512	0.122	0.30
	14	3.96	-1.04	0.711	0.0759	
	28	4.39	-1.19	0.841	0.0428	
	91	4.79	-1.32	0.966	0.0096	
高炉セメント B 種	28	14.4	-3.86	0.477	0.140	0.42
	56	17.4	-4.88	0.687	0.0877	
	91	19.2	-5.44	0.787	0.0757	
フライアッシュ セメント B 種	28	13.4	-3.20	0.514	0.116	0.47
	56	16.2	-4.12	0.708	0.0739	
	91	18.4	-4.80	0.850	0.0456	

解説 表 5.1.2 各基準材齢の圧縮強度の推定式 (N/mm²)

セメントの種類	基準材齢 i (日)	$f_c(i)=p_1+p_2(C/W)$	
		p_1	p_2
普通ポルトランド セメント	28	-14.5	28.1
	56	-12.8	28.7
	91	-11.6	29.1
中庸熱ポルトランド セメント	28	-17.6	27.5
	56	-12.9	28.8
	91	-7.28	29.1
低熱ポルトランド セメント	28	-17.6	25.2
	56	-13.4	28.7
	91	-6.44	29.4
早強ポルトランド セメント	7	-22.6	30.5
	14	-18.2	31.0
	28	-14.9	30.9
	91	-11.5	30.5
高炉セメント B 種	28	-10.2	24.3
	56	-3.38	23.6
	91	-1.43	24.5
フライアッシュ セメント B 種	28	-27.2	31.8
	56	-24.2	32.9
	91	-22.4	34.0

(正)

解説 表 5.1.1 圧縮強度発現式の各定数

セメントの種類	基準材齢 i (日)	$a=\alpha_1+\beta_1(C/W)$		$b=\alpha_2+\beta_2(C/W)$		S_f
		α_1	β_1	α_2	β_2	
普通ポルトランド セメント	28	6.31	-1.36	0.771	0.0494	0.37
	56	6.94	-1.54	0.875	0.0278	
	91	7.37	-1.67	0.946	0.0138	
中庸熱ポルトランド セメント	28	12.6	-2.58	0.480	0.1140	0.42
	56	15.2	-3.21	0.656	0.0840	
	91	18.1	-3.96	0.891	0.0350	
低熱ポルトランド セメント	28	16.1	-2.55	0.272	0.1430	0.50
	56	24.0	-4.48	0.584	0.0830	
	91	28.7	-5.60	0.788	0.0460	
早強ポルトランド セメント	7	3.27	-0.816	0.512	0.122	0.30
	14	3.96	-1.04	0.711	0.0759	
	28	4.39	-1.19	0.841	0.0428	
	91	4.79	-1.32	0.966	0.0096	
高炉セメント B 種	28	14.4	-3.86	0.477	0.140	0.42
	56	17.4	-4.88	0.687	0.0877	
	91	19.2	-5.44	0.787	0.0757	
フライアッシュ セメント B 種	28	13.4	-3.20	0.514	0.116	0.47
	56	16.2	-4.12	0.708	0.0739	
	91	18.4	-4.80	0.850	0.0456	

解説 表 5.1.2 各基準材齢の圧縮強度の推定式 (N/mm²)

セメントの種類	基準材齢 i (日)	$f_c(i)=p_1+p_2(C/W)$	
		p_1	p_2
普通ポルトランド セメント	28	-14.5	28.1
	56	-12.8	28.7
	91	-11.6	29.1
中庸熱ポルトランド セメント	28	-33.5	36.2
	56	-26.3	36.3
	91	-18.4	35.4
低熱ポルトランド セメント	28	-37.3	36.4
	56	-23.7	35.6
	91	-19.0	36.6
早強ポルトランド セメント	7	-22.6	30.5
	14	-18.2	31.0
	28	-14.9	30.9
	91	-11.5	30.5
高炉セメント B 種	28	-10.2	24.3
	56	-3.38	23.6
	91	-1.43	24.5
フライアッシュ セメント B 種	28	-27.2	31.8
	56	-24.2	32.9
	91	-22.4	34.0